

## 将来計画委員会議事録(最終版)

日時 : 2019年7月24日(水) 13:00~15:00

場所 : 国立京都国際会館 Room 552(5F)

<https://www.icckyo.or.jp/>

出席者(敬称略): 佐藤 隆章(慶応大学), 吉澤 一洋(エーザイ), 間瀬 暢之(静岡大学), 原 敦治(和光純薬), 岡戸 康太郎(味の素), 山下 真之(スペラファーマ), 近藤 知明(大日本住友製薬), 蓮 芳文(第一三共), 榎本 太郎(中外製薬), 植村 威士(田辺三菱製薬), 山下 陽平(アステラス製薬), 大原 孝文(塩野義製薬, 記)

ご欠席(敬称略): イリエシュ ラウレアン(理化学研究所)

### 【議題】

1. 今年度の将来計画委員会の役割について(大原)
2. 前回議事確認
3. 第14回(2019年)プロセス化学ラウンジ 準備状況(山下陽平委員)
4. 第15回(2020年)プロセス化学ラウンジ 世話役の決定
5. ウィンターシンポジウム午前の部(教育講演)とランチョン運営について(全員)
6. その他, 自由討議(学会, プロセス化学発展に向けた新しい試み, 現行イベントの改善等)

### 【内容】

1. 今年度の将来計画委員会の役割について
  - プロセス化学ラウンジやウィンターシンポジウムの午前の部の運営を通じて学生・大学院生へのプロセス化学の啓蒙, 企業研究者間の情報交換や産学連携の場を提供する.
  - 新たな企画や試みも模索しつつ, 将来計画委員会の意思も発信していく.
2. 前回議事確認
  - 2019年3月27日に開催した前回委員会の議事について確認した
3. 第14回(2019年)プロセス化学ラウンジ 準備状況(山下陽平委員)
  - 2019年11月29日(金)~11月30日(土)に富士フィルム和光純薬湯河原研修所にて開催. 時間は昨年同様, 金曜10時開始, 土曜日朝食後解散.
  - 5演題で講師決定. ショートプレゼンのイベントも盛り込む. ショートプレゼン後の議論の深堀をショートプレゼン後に行なうか, 夕食時に行うかについて話し合ったが, 夕食時は難しいのではないかという意見もあった. 継続議論とする.
  - 夕食後の情報交換会については要検討. 部屋割りの工夫を考える.
  - プロセス化学ラウンジの参加対象は正会員もしくは賛助会員または学生とする. プロセス化学ラウンジの開催の目的を深堀することが重要との理由から, 非会員枠のアイデアは見送ることとした. 年単位の参加人数の増減は懸念する必要はないことを確認した.
  - 参加者については各企業の理事から後押しいただくことは理事会でお願いした.
  - プロセスラウンジならではの現場に近い議論や企業間の交流に焦点を当てることとする.
4. 第15回(2020年)プロセス化学ラウンジ 世話役の決定
  - 大日本住友製薬の近藤知明委員にお願いする.
5. ウィンターシンポジウム午前の部(教育講演)とランチョン運営について(全員)
  - 午前の部の教育講演は以下の通りに決定
    - ☆「プロセス化学の最前線: 基礎から実践まで」
    - 特別講演1: 「原薬の製造法開発において見出された課題と、課題克服に向けたチャレンジ」塩野義製薬株式会社 青山恭規氏
    - 特別講演2: 「プロセス化学 一度やったらやめられない」エーザイ株式会社 田上克也氏
  - ランチョン座談会はプロセス化学の勉強会の位置づけとして開催する. 企業研究者と学

生・大学院生との昼食会の形式をとることとした。プロセス化学に関するキーワードを「医薬品のプロセス化学」や「実践プロセス化学」から抜粋したレジメを準備し、学生・大学院生の要望に応じてその場で企業研究者が質問に答える等。

- 学部学生や大学院生の年次によって班分けをしたほうが有意義な議論ができる。参加登録の時点で学生・大学院生の年次（4年生、修士課程、博士課程）が分かるようにする。
6. その他、自由討議（学会、プロセス化学発展に向けた新しい試み、現行イベントの改善等）
- 今年度はラウンジの講演会後の企画やウィンターシンポジウムの午前の部およびランチョン座談会の取り組みを通してアイデアを練る。
  - 将来計画委員会発で SNS や Chem-Station に投稿するなど、情報発信も工夫をしてはどうか。
  - 今回の 2019 ISPC でも製薬企業 6 社で ICH M7 の取り組みを発表されているが、その他にも一緒に何かを実施することも可能ではないかといった意見もあった。

以上